

# 東北地方コンパクトシティ 検討委員会

## 第2回委員会事務局資料

平成18年12月12日

国土交通省 東北地方整備局

1

## 目次

1. 「東北地方の中小都市」の検討視点の整理
2. モデル都市におけるコンパクトシティの検討
  - 2 - 1. モデル都市のヒアリングについて
  - 2 - 2. モデル都市におけるコンパクトシティの検討
  - 2 - 3. モデル都市検討のまとめ
3. 「東北地方の中小都市」におけるコンパクトシティ像

2

# 1. 「東北地方の中小都市」の検討視点の整理

## 各委員の主なコンパクトシティの考え方(第1回委員会資料より)

一般的な視点	清水委員	鈴木委員	木村委員	山田委員	高嶋委員
安全安心な暮らし	・ 建物はせいぜい3,4階建て(2階以上が居住,1階は店舗) ・ 2階以上に一般住民等も居住できるような居住環境	・ 居住継承や居住存続が可能な街なか居住政策 ・ 高齢社会を支える居住政策	・ 交流,滞留空間の創出(広場,公園,コミュニティ道路,ベンチ等) ・ 安心拠点、複合施設		
アクセシビリティの確保	・ 徒歩,バス等で用が足せ,自動車に頼らなくても生活できる都市 ・ 人々がゆったりと散策し,憩いを楽しめる都市	・ 広域公共交通マネジメント ・ 中心市街地が人々に優しく歩いて楽しめること	・ 公共交通利用環境の優先整備 ・ 歩行者等利用環境の整備 ・ 交流可能性が増大するコンパクト化,バリアフリー		
都市機能の適正配置	・ 中心部の既存ストックを有効に活用した職住近接等の都市	・ コンパクトシティのグランドデザインの決定と実施 ・ 白地地域の開発抑制と中心市街地への集積効果を高める ・ 中心市街地で顔となるストリート(目抜き通り)の形成	・ 混合利用による都市の利便性の増大		
コミュニティの維持・再生	・ 世代を超えた交流が生まれる空間の創出	・ 行政,地元商工会,市民,NPO等とのパートナーシップによるマネジメント	・ まちづくり活動における協働とそれがもたらす連携の絆 ・ 交流を通じた文化等の生産	・ コミュニティの最適規模と空間構成 ・ コミュニティガバナンスを保障できるコミュニティ空間整備	
土地利用のあり方	・ 市街地の無秩序な拡大を抑制	・ 総合的なマネジメントの観点から用途容積制度の運用見直し ・ 郊外,農村部等における適切な土地利用	・ 都市域拡大の抑制	・ 適正空間の管理とその主体の形成(新たなパートナーシップの姿)	
環境・景観に配慮した都市の形成	・ 市街地郊外を取り巻く緑地,農地,森林,海浜などの保全	・ 豊かで美しい農村や漁村を目指す施策の展開	・ 自動車利用の抑制 ・ エネルギー消費の少ない都市構造		
都市経営		・ 地域の特産品を日常的に販売,食文化体験施設を立地		・ 個と全体の管理運営システムの形成	
その他		・ グランドデザインのチェックと修正するフォローアップ体制の確立			・ 都市間競争の中でのコンパクトシティ ・ タイムスケールの設定

## 委員意見を踏まえた「東北地方の中小都市」のコンパクトシティ像の視点

主な検討テーマ	コンパクトシティの考え方一覧(委員意見集約)	論点例
安全安心な暮らし	-	雪に強いまちづくり
	・都市規模に応じた中層の街なか居住 ・高齢者など、多様な人々が住み続けられる街なか居住 ・街なかを楽しむ交流、滞留空間等の確保、安心拠点、複合拠点	中小都市における街なか居住
アクセシビリティの確保	-	多様な居住地にあった住まい方
	・広域的な公共交通マネジメント ・過度に自動車に依存しない交通体系	多様な交通手段の確保
都市機能の適正配置	・街を楽しめる歩行環境などの形成 ・交通環境のバリアフリー化	移動の円滑化
	・白地地域の開発抑制と中心市街地への機能集積 ・混合利用による利便性・快適性の高い中心部 ・街の顔となる通りが形成	既存施設の活用と再配置
	・既存ストックを活用した職住近接等の都市 ・タイムスケール、ランドデザインのチェックと修正	職住近接型のまちづくり 時間軸を考慮したまちづくり
コミュニティの維持・再生	・交流を通じた文化の生産 ・コミュニティの最適規模と空間構成、コミュニティ空間整備	都市・農村部のコミュニティの活性化
	・まちづくり活動における協働 ・パートナーシップによるタウンダウンマネジメント	市民(NPO等)・行政・企業等の協働
土地利用のあり方	・総合的なタウンマネジメント、適正空間の管理と主体育成 ・都市域拡大の抑制	市街地の拡大抑制
	・市街地を取り巻く自然環境の保全	農地や自然環境の保全
環境・景観に配慮した都市の形成	・エネルギー消費の少ない都市構造	循環型都市の形成(省エネ、リサイクル)
	・美しい農村や漁村が目指されている	景観に配慮したまちづくり
都市経営	・地域の特産品を日常的に販売	地域資源・産業の育成・経済的自律
	・個と全体の管理運営システムが形成	公共公益施設のコスト縮減
	・都市間競争下でのコンパクトシティ	都市間競争下での都市経営

5

## 2. モデル都市におけるコンパクトシティの検討

- 2 - 1. モデル都市のヒアリングについて
- 2 - 2. モデル都市におけるコンパクトシティの検討
  - 宮古市におけるコンパクトシティの検討
  - 東根市におけるコンパクトシティの検討
  - 横手市におけるコンパクトシティの検討
- 2 - 3. モデル都市検討のまとめ

6

## 2 - 1 . モデル都市のヒアリングについて

### ヒアリング日程と内容

	宮古市	東根市	横手市
日程	11月8日(水)	11月14日(火)	11月17日(金)
相手方	都市計画課	都市整備課	都市計画課

#### 主なヒアリング内容

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 . コンパクトシティの認知度</li> <li>2 - 1 . 市街地の低密度拡散について</li> <li>2 - 2 . 中心市街地活性化について</li> <li>2 - 3 . 多様な交通手段の確保について</li> <li>2 - 4 . 環境負荷抑制策について</li> <li>2 - 5 . 行政コストの縮減策について</li> <li>3 . 周辺自治体との関係について</li> <li>4 . その他(まちづくりの課題など)</li> </ul> | } | <p style="color: red;">中小都市において『コンパクトシティ』はどれほど知られているか</p> <p style="color: red;">一般的に言われている都市の問題課題に対して、どのような考えを持っているか</p> <p style="color: red;">通勤・通学、レクリエーション、買い物、医療などの生活面における、周辺市町村との依存</p> |
|---|---|--|

7

### コンパクトシティの認識

宮古市	東根市	横手市
<p>全く知られていない</p> <p>平成15年に策定された都市計画マスタープラン(市策定)では「コンパクトなまちづくりを進めます」と記載されているが、流行の言葉を盛り込んだだけだろうという認識</p> <p>1面が海、3面が山であり、自然とコンパクトなまちになっていると認識</p>	<p>全く知られていない</p> <p>乱開発を抑制する施策として認識する程度</p> <p>山形県では平成13年に中心市街地の活性化などを目指す「コンパクト交流文化都市構想」を定めたが、特に市の担当者レベルにまで浸透していない</p>	<p>都市計画担当レベルでは漠然と認識している</p> <p>昭和の頃は「小さくてもキラリと光るまち」を標榜しており、『コンパクトシティ』の理念にあったようなまちづくりが進められてきた(駅前の区画整理を重点実施するなど)</p> <p>平成に入ってからは一気に郊外開発が進められてきた</p>

8

## 2 - 2 . モデル都市におけるコンパクトシティの検討

宮古市におけるコンパクトシティの検討

東根市におけるコンパクトシティの検討

横手市におけるコンパクトシティの検討

## 宮古市におけるコンパクトシティの検討

---

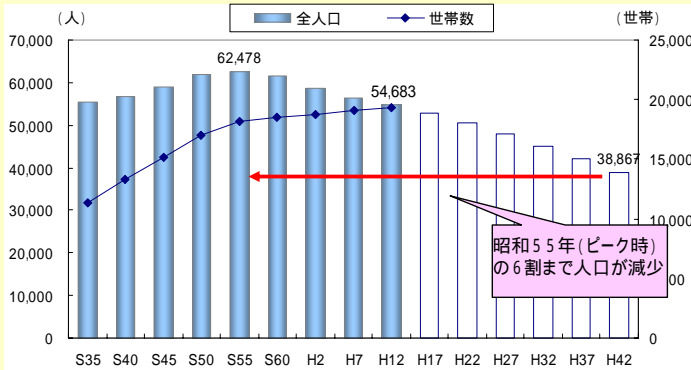
# (1) 宮古市の概要

## 宮古市の概要

- ・宮古市の人口は昭和55年以降減少しており、平成42年には昭和55年(ピーク時)の6割まで人口が減少すると予測されている。
- ・高齢化が大幅に進み、30年後には3人に1人が高齢者となる。
- ・DID人口密度は減少しており、平成12年では約43人/haとなっている。

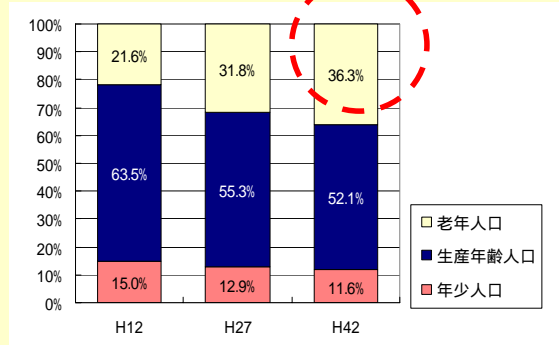
- ・人口：54,683人 (H12)
- ・世帯数：19,347世帯 (H12)
- ・高齢化率：21.6%
- ・面積：339km<sup>2</sup>
- ・都市計画区域面積：75.4km<sup>2</sup>
- ・DID面積：4.77km<sup>2</sup>
- ・DID人口密度：42.8人/ha

人口・世帯数の推移



(資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月))

高齢化割合の推移



30年後には3人に1人が高齢者となる

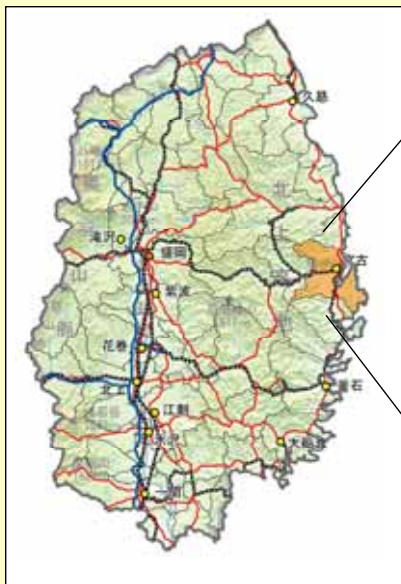
(資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月))

## 都市間流動の状況

- ・宮古市は周辺町村の買い物依存度が高く、田老町等の買回り品の約9割が宮古市に依存している。
- ・宮古市からの流出先は盛岡市が第1位で買回り品の1割程度となっている。

他市町村への買回り品の流出状況

宮古市の位置



(資料: 平成15年度 岩手県買物動向調査)



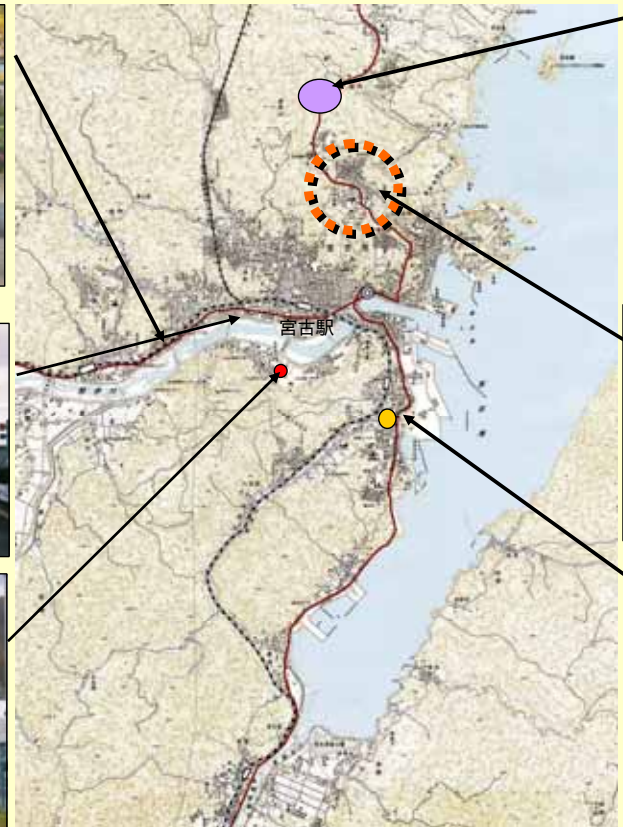
## 都市施設の分布状況



13

## (2) 宮古市の土地利用状況等

### 市街地周辺の状況



14



## 街なかの状況

歩道のない商店街

平成17年度に実施した社会実験

平日一方通行、夜間対面

10.0～9.0m

歩道帯 2.0m 車道 6.0m 歩道帯 2.0m

終日一方通行

10.0～9.0m

歩道帯 4.0m 車道 4.0m 歩道帯 2.0m

街なかに建つ店舗併用の住宅

宮古市

宮古駅

総合病院の跡地に郵便局を誘致

TMOが大型店を活用して「キャトル宮古」を運営

新市にふさわしい風格のある駅前広場の整備予定

TMOが取り組んでいる街なかの休憩スペース

15

## (3) 宮古市の都市構造の特性・課題

### 宮古市の特性

- ・リアス式海岸の地形的な制約により、平坦地が少なく、津波による被害が発生しやすい。
- ・閉伊川河口にT字型の市街地を形成。郊外に住居系市街地が点在。
- ・古い住宅団地の高齢化が進行。**敷地が狭く、多世帯住宅等の立地が困難で、建替えが進まない。**
- ・昭和の合併により都市施設が分散。
- ・鉄道本数が少なく、比較的バス利用率が高い。
- ・東西に約1 km程度の**中心市街地を形成。**
- ・県立病院の移転等に伴い、中心部の空洞化が進行。約1割が空店舗。
- ・中心商店街は、**無歩道区間が多い。店舗併用住宅が多い。**
- ・街なかへの住み替え意向は少ない。
- ・大きな商圈を形成しにくいので、今後も大型店の立地は見込まれない。
- ・TMO等の取り組みはあるものの、地域活動はあまりみられない。
- ・買回り品の購入などで盛岡市との繋がりが深い。

### ヒアリング結果

- 【市街地関連】**
  - ・平地が少なく、乱開発の懸念はない。
- 【中心市街地関連】**
  - ・県立病院が郊外に移転。
  - ・駅前のサティが撤退した跡を**TMOが「キャトル宮古」として再生。**
  - ・風格のある歩いて楽しい駅前に向けて駅前広場を整備中。
  - ・車社会、**中心市街地の魅力不足等を背景に**街なか居住のニーズが生まれない
- 【交通関連】**
  - ・**市民バスを運行。**今後も維持。
  - ・鉄道本数が少ない。
- 【行政コスト関連】**
  - ・市街地の再整備は財政上困難。

### 将来動向

- 平成42年には**昭和55年(ピーク時)の6割まで人口が減少。**
- 高齢者数は5人に1人から3人に1人に増加する。

### 宮古市の都市構造上の課題

- 安全・安心な暮らし**  
狭い市街地の中で、**安心して住み続けるための住環境の向上が必要**
- アクセシビリティの確保**  
点在する都市機能や集落などを繋げる、バス等の公共交通の活用促進  
歩道が少ない街なかの歩行者の安全性の確保
- 都市機能の適正配置**  
キャトル宮古や商店街等、**今ある機能を活かした街なかの魅力の向上**
- コミュニティの維持・再生**  
津波など災害時の協力体制を強化  
農漁村との交流不足の改善
- 土地利用**  
少ない可住地の有効活用
- 環境・景観に配慮した都市の形成**  
宮古湾の水産業を育むために、山地の開発を抑制
- 都市経営**  
水産業を活かした地域産業の活性化が必要

16



# (4) 宮古市におけるコンパクトシティの検討

特徴ある生活サービス拠点が市民生活を重層的に支えるクラスター型コンパクトシティ

宮古市はリアス式海岸の特徴により、海と山に囲まれており、限られた平坦地を中心に市街地を形成してきた。今後も人口が減少していく中で、安心して住み続けられる住環境を形成していく必要がある。

そのため、分散している都市拠点を連携し、相互に補完・連携しあうシステムを構築することにより、市民が安心して都市機能を楽しむことができる都市の形成が望まれる。

**安全安心の暮らし**  
限られた市街地を活かし、中層の魅力ある建物整備等により快適で安心して住み続けられる空間を形成

**コミュニティの維持再生**  
災害に対する市民・企業等の応援体制の強化  
周辺の農漁村との交流に向けた市民主体の活動の展開

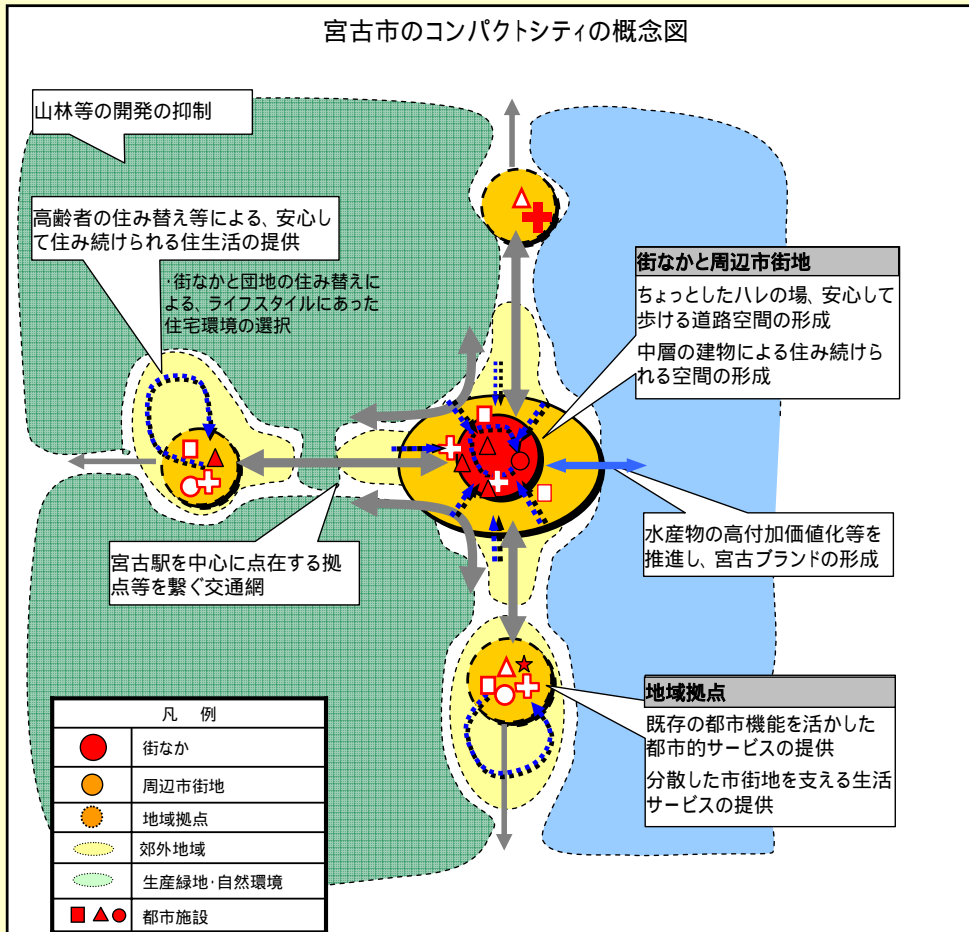
**アクセシビリティの確保**  
宮古駅前広場整備を中心に、点在する都市拠点や中山間地をネットワークするバス網を「デマンドシステム」等の多様な手段で展開

**土地利用のあり方**  
山林は保全を図ることを基本とし平坦地の有効活用を図る。

**環境・景観に配慮した都市の形成**  
基幹産業である水産業の振興を図る観点からも、山林開発を抑制し自然環境を保全

**都市機能の適正配置**  
街なかは市民の買い物の場、ちょっとしたハレの場として、安心して歩ける道路空間が確保された、歩いて楽しめる商店街を形成

**都市経営**  
水産物の高付加価値化等を推進し、宮古ブランドの形成を図る。



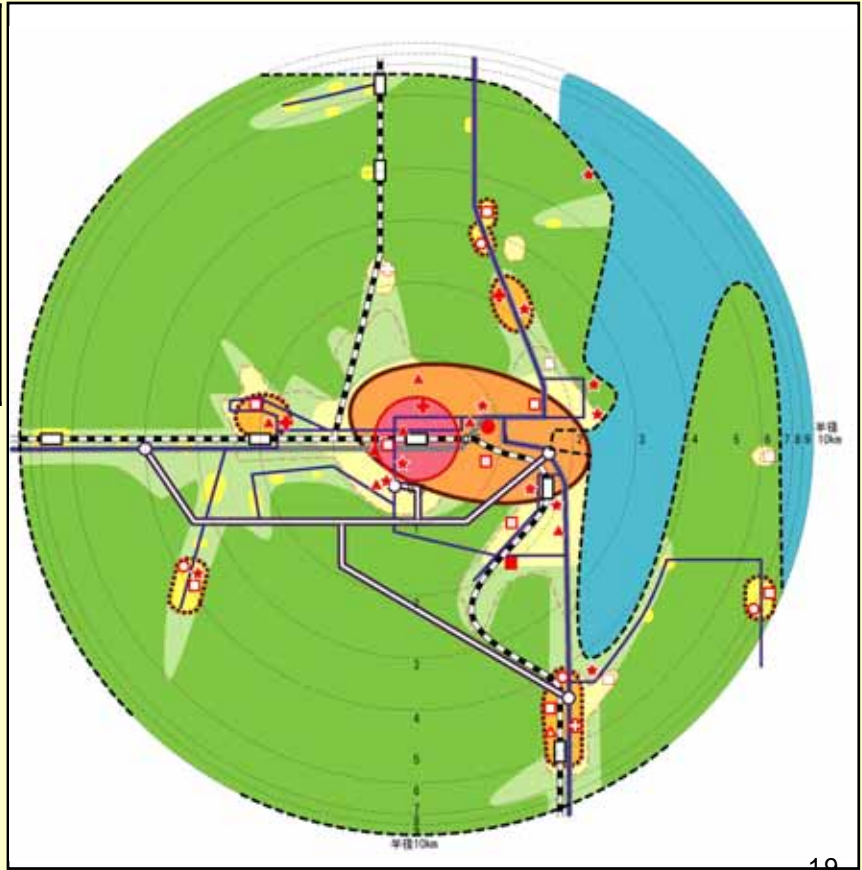
将来人口の設定例

宮古市のコンパクトシティイメージ例

	H12 (基準年)	H42 (将来予測)	備考
人口 (人)	54,638	38,867	人口が約1万6千人が減少
DID人口 (人)	20,425	20,640	H42のDID面積、人口はH12と同等程度を確保した場合を想定
DID面積 (km <sup>2</sup> )	4.77	4.80	
DID密度 (人/ha)	42.8	43.0	
その他人口 (人)	34,213	18,227	概ね現在の人口の半分程度が減少 空家・空地が増加する

資料:将来人口は人口問題研究所  
「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月)

凡 例		
● 市役所	○ 公民館・公民館	→ 幹線
● 文化交流施設	□ 小学校	— 主な道路網
● 総合病院	○ 診療所	— ループ型中心交通
▲ 大型店	▲ 集客力を促す施設	— 環状道路
● まちなかエリア	● 一般市街地地域	— 国道
● 駅前生活エリア	● 郊外地域	
● サブ駅前生活エリア	● 集落地域	
● 集落エリア	● 田舎・農村地域	
	● 山林地域	



## 東根市におけるコンパクトシティの検討

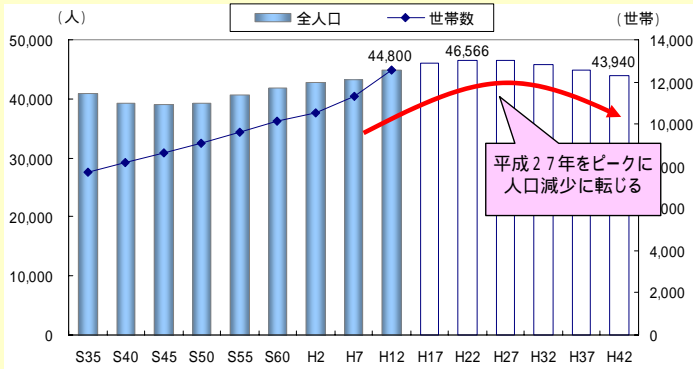
# (1) 東根市の概要

## 東根市の概要

- ・東根市の人口は約45,000人で増加傾向にあるが、平成22年をピークに減少に転じる。
- ・高齢化は確実に進み、30年後には3人に1人が高齢者となる。
- ・DID面積は昭和45年からほとんど変わっていない。人口密度は約30人/ha前後で推移し、低密度な市街地となっている。

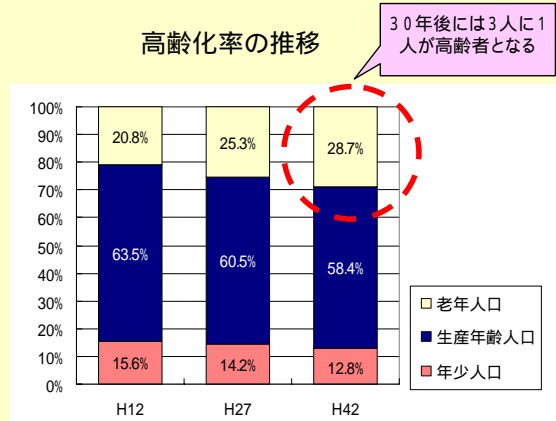
- ・人口：44,800人（H12）
- ・世帯数：12,579世帯（H12）
- ・高齢化率：20.8%
- ・面積：207km<sup>2</sup>
- ・都市計画区域面積：62.3km<sup>2</sup>
- ・DID面積：4.46km<sup>2</sup>
- ・DID人口密度：26.8人/ha

人口・世帯数の推移



(資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月))

高齢化率の推移



(資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月))

## 都市間流動の状況

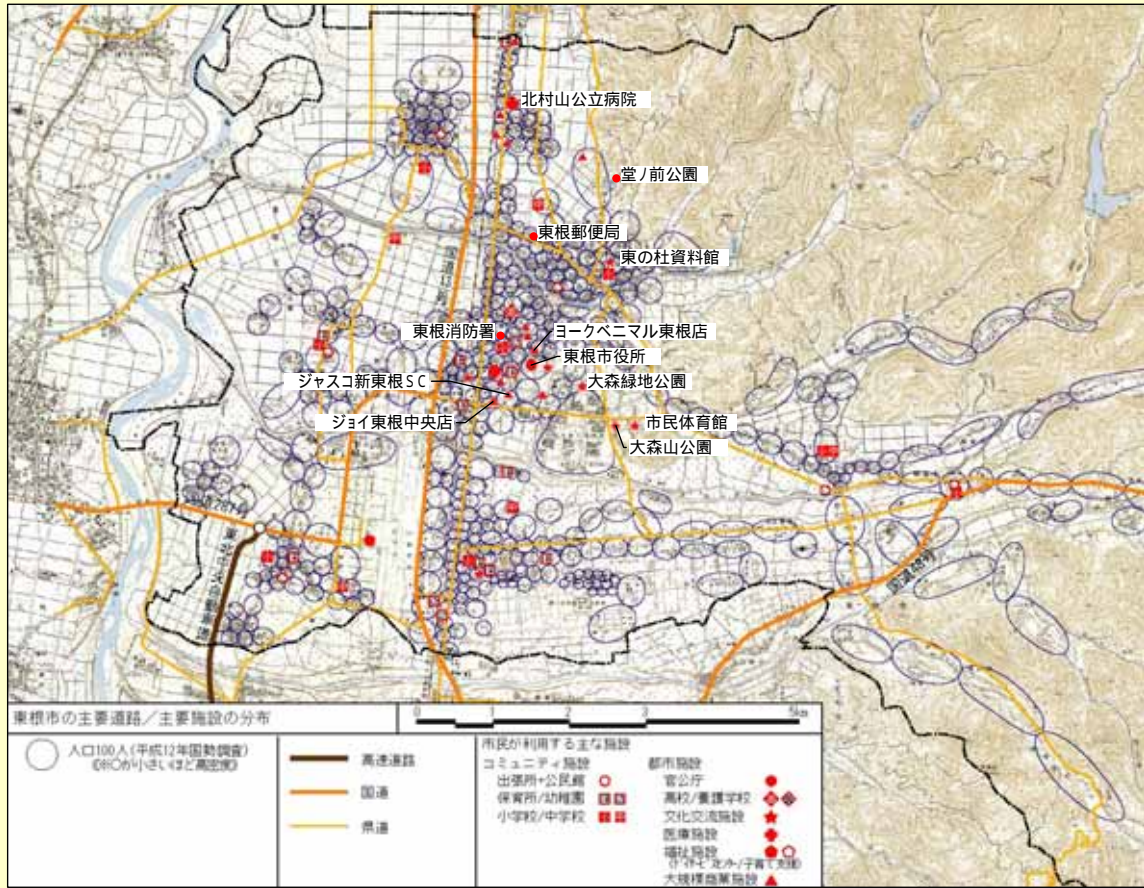
- ・東根市は国道13号沿いに市が連担しており、隣接する市から買い物に訪れる比率が高い。
- ・東根市が流出する買い物先としては、山形市が一番となっているが、流出割合は約20%程度となっている。

他市町村への買回り品の流出状況



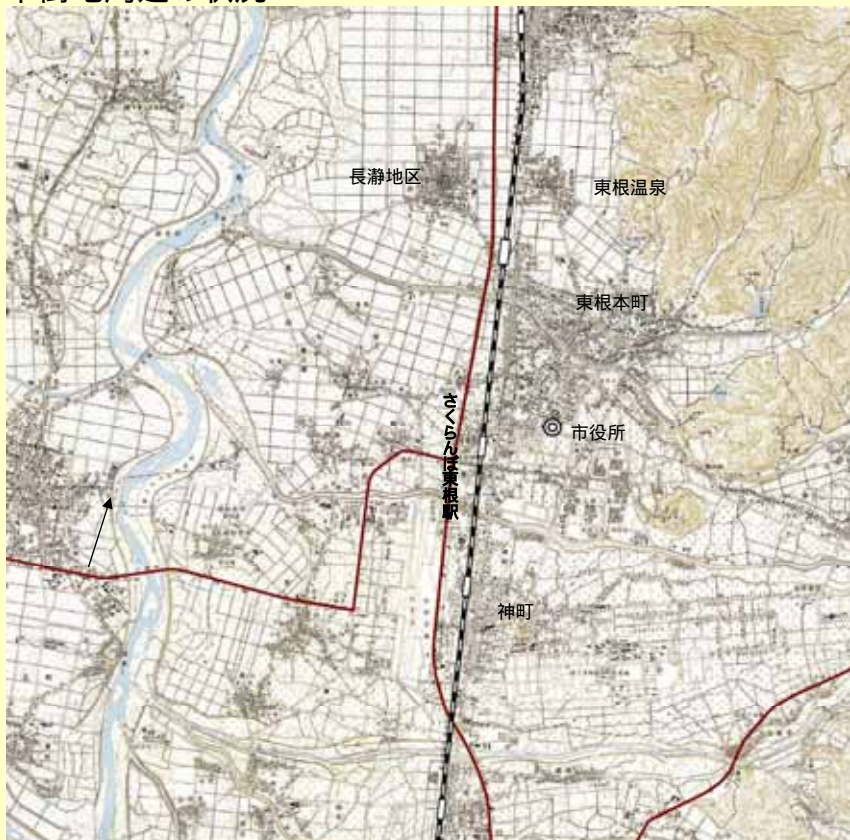


## 都市施設の分布状況



## (2) 東根市の土地利用状況等

### 市街地周辺の状況





## 街なかの状況



## (3) 東根市の都市構造の特性・課題

### 東根市の特性

- ・昭和の合併により1町5村が合併。東根温泉、東根本町、神町の3つの市街地と、その周辺に農村集落が点在
- ・果樹を中心とした農業が盛んで、**さくらんぼ生産が日本一**
- ・昭和50年代には工業団地の造成に着手。**山形第2位の生産を誇る。**
- ・**高速道路、新幹線、空港の高速交通の利便性に恵まれている。**
- ・市街地は概ね平坦地。未利用地がある。
- ・新幹線駅前に**大型商業施設を誘致**、地区計画による店舗の誘導。
- ・東根温泉、東根本町、神町の既成市街地では、人口減少、高齢化が進行。敷地が狭く、接道条件が悪いため、建て替えが進まない。
- ・高齢者の街なか居住のニーズはあまり聞かない。
- ・駅周辺や神町北部に新築住宅が増加。若い世代が移住。
- ・高校、買回り品等は山形市と繋がりが深い。

### ヒアリング結果

- 【市街地関連】**
  - ・新幹線駅前を市の核として位置づけ一本木区画整理事業を実施
  - ・既成市街地に隣接する地区で区画整理を実施し、世帯増加を吸収
  - ・**集落は、道路が狭隘**
  - ・郊外の大型店舗の立地予定あり
- 【中心市街地関連】**
  - ・東根本町で、歩いて楽しめる街づくりを実施(ウォーキングトレイル等)
- 【交通関連】**
  - ・**市民バスを運行し空白地帯を解消**
  - ・隣接する**河北町とバスの相互乗り入れ**を実施
- 【環境関連】**
  - ・**環境対策関連施策を実施**
- 【行政コスト関連】**
  - ・街路事業はほぼ終了
  - ・維持管理費では特に問題なし

### 将来動向

- ・将来人口は**平成27年をピークに減少**に転じ、緩やかに減少する。
- ・高齢者数は5人に1人から3人に1人に増加する。

### 東根市の都市構造上の課題

- 安全・安心な暮らし**  
東根本町、長瀬の既成市街地において、雪対策、高齢者の生活支援等居住環境の向上が必要
- アクセシビリティの確保**  
市民バスを充実し、**点在する集落、周辺市町村の生活を支えることが必要**
- 都市機能の適正配置**  
一本木土地区画整理事業地区が**市の顔となるような市街地づくり**
- コミュニティの維持・再生**  
高齢化が進行する既成市街地におけるコミュニティの維持
- 土地利用のあり方**  
白地地域の**大規模店舗の開発圧力**(国道13号沿い、市役所東側)
- 環境・景観に配慮した都市の形成**  
城址付近の水路やお堀、田園景観等身近な自然環境の管理。
- 都市経営**  
停滞している臨空工業等の産業の活性化が必要

# (4) 東根市におけるコンパクトシティの検討

## 農作物や自然緑地等身近な環境がまちを彩る緑住コンパクトシティ

東根市では、日本一のさくらんぼ生産や東根温泉など地域の産業が継承できる都市づくりが求められており、それが東根市を持続的に発展させていくことにつながる。

歴史的な旧市街地や優れた環境・景観を保全する一方、高速交通体系の利用を拡大して、都市と農村の交流を促進するなど、豊かな自然と新たな交流拠点が同居する都市の形成が望まれる。

**安全安心の暮らし**  
東根本町、長瀬の既成市街地において、安心して住み続けられる生活環境の形成

**コミュニティの維持再生**  
さくらんぼ等を媒介とした他の都市と農村の交流促進

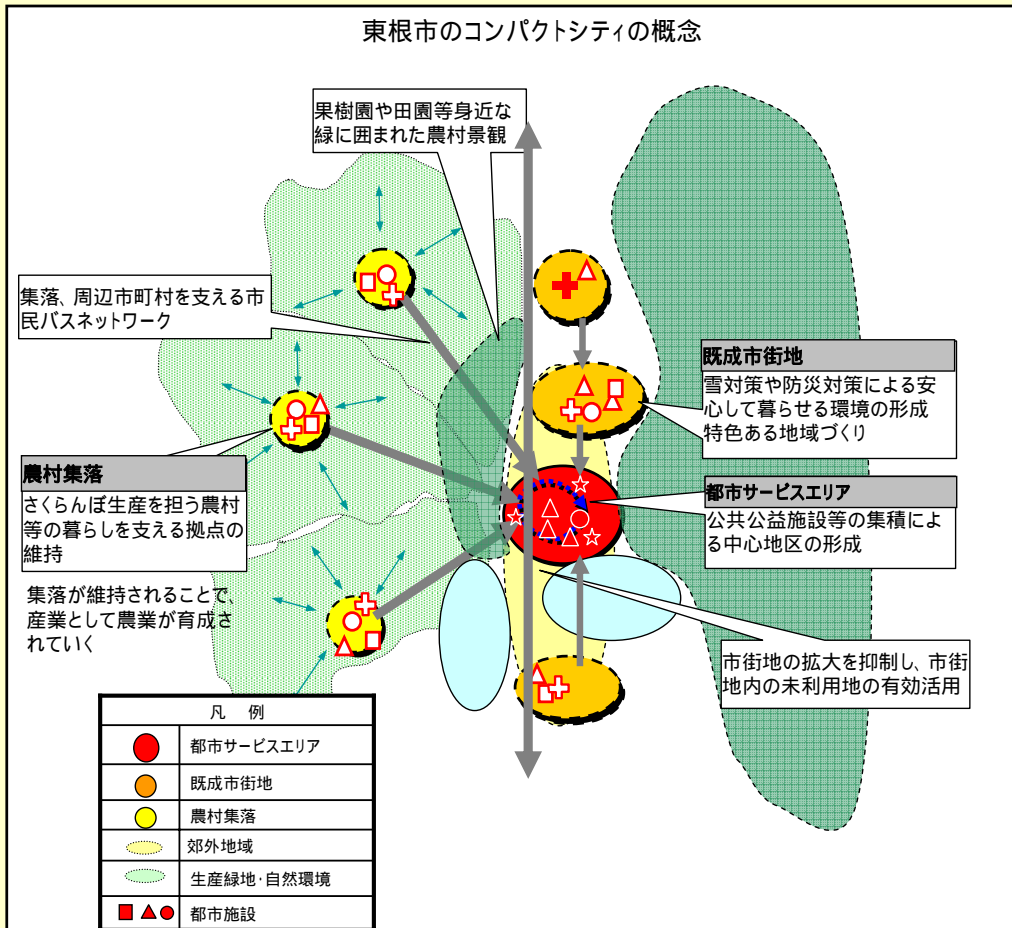
**アクセシビリティの確保**  
集落、周辺市町村の生活を支える市民バスネットワークの強化

**土地利用のあり方**  
国道沿いの大規模店舗の立地等を抑制するなど市街地拡大のコントロールと市街地内未利用地の有効活用を推進

**都市機能の適正配置**  
さくらんぼ東根駅周辺への公共公益施設等の集積による中心地区の形成

**環境・景観に配慮した都市の形成**  
りんごやさくらんぼといった果樹や田園など、身近な緑に囲まれた農村景観や生活環境の保全

**都市経営**  
空港等の立地特性を活かした産業の振興



将来人口の設定例

	H12 (基準年)	H42 (将来予測)	備考
人口 (人)	44,800	43,940	
D:D人口 (人)	11,394	13,500	H42のD:D 面積、人口 はH12と同 等程度を既 成市街地エ リアで確保 した場合を 想定
D:D面積 (km <sup>2</sup> )	4.46	4.50	
D:D密度 (人/ha)	26.8	30.0	
その他人口 (人)	33,406	30,440	D:D外から 約3千人が減 少

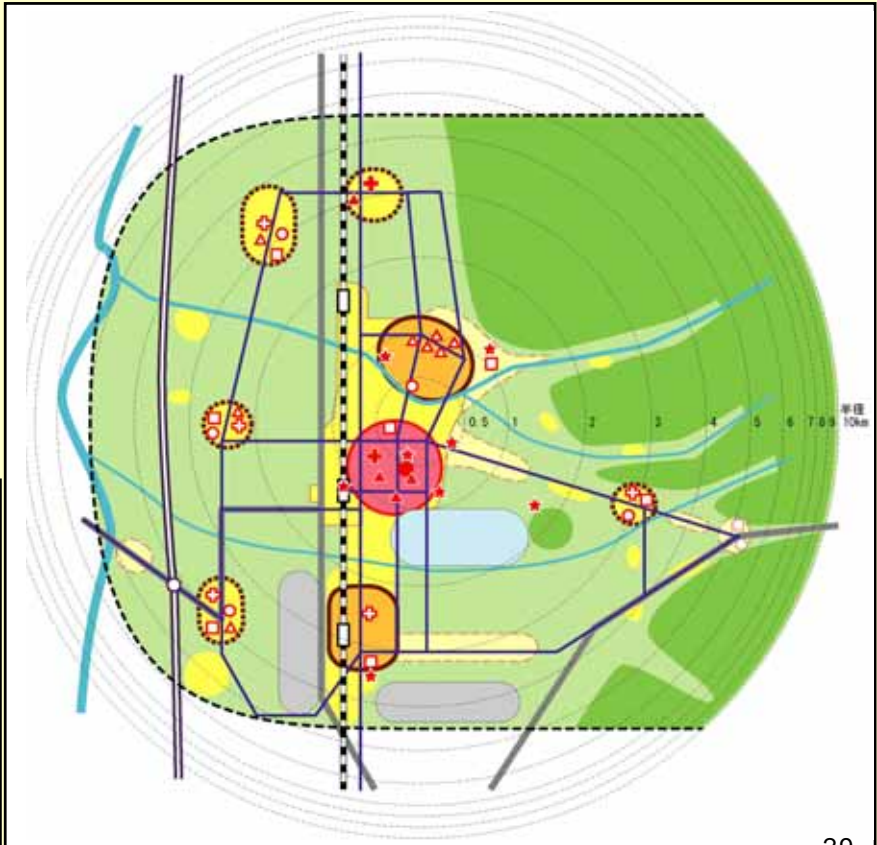
資料:将来人口は人口問題研究所

「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月)

凡 例

● 市役所	○ 公民館・公民館	→ 国道
★ 文化芸術施設	□ 中学校	— 主要道路網
◆ 総合病院	◎ 図書館	— ループ型中心交通
▲ 大駅舎	△ 警察署を併せ持つ施設	— 高速道路
● 都市サービスエリア	● 一級市街地地域	● 山林地域
● 都市生活エリア	● 郊外地域	
● サブ都市生活エリア	● 集落地域	
● 集落エリア	● 田舎・緑地地域	

東根市のコンパクトシティイメージ例



# 横手市におけるコンパクトシティの検討



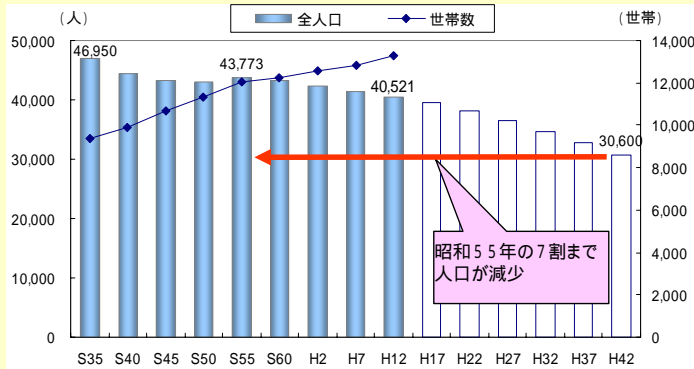
# (1) 横手市の概要

## 横手市の概要

- ・横手市の人口は昭和55年以降減少しており、平成42年には昭和55年の7割まで人口が減少すると予測されている。
- ・高齢化が大幅に進み、30年後には約40%が高齢者となる。
- ・DID面積は緩やかに増加し、一方で人口密度は低下し40人/haとなっている。

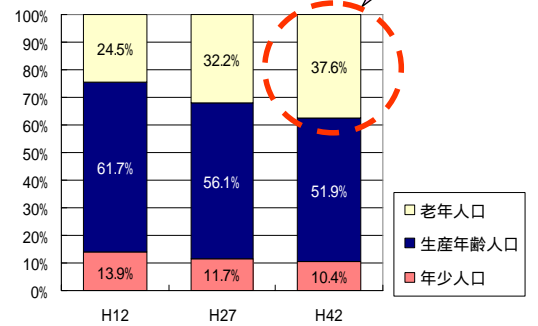
- ・人口：40,521人 (H12)
- ・世帯数：13,257世帯 (H12)
- ・高齢化率：24.8%
- ・面積：111km<sup>2</sup>
- ・都市計画区域面積：80.4km<sup>2</sup>
- ・DID面積：3.91km<sup>2</sup>
- ・DID人口密度：40.0人/ha

人口・世帯数の推移



(資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月))

高齢者の割合の推移



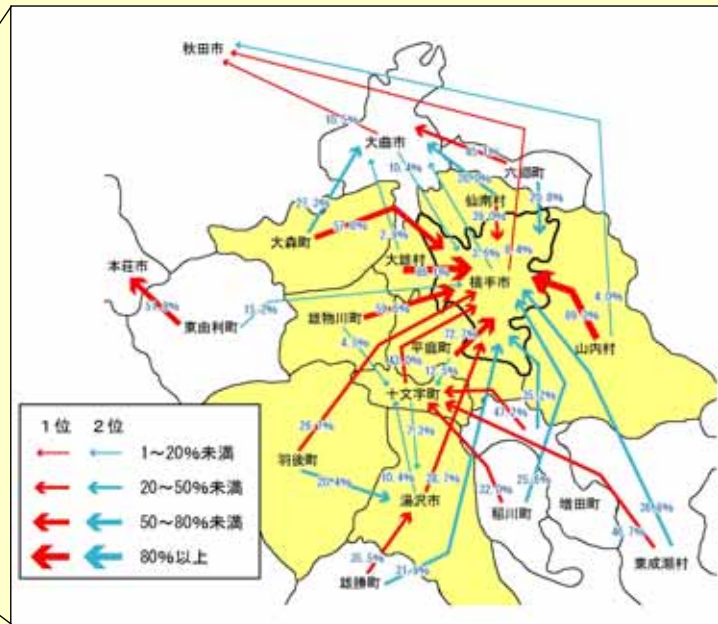
30年後には約40%が高齢者となる

(資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月))

## 都市間流動の状況

- ・横手市は秋田県南地域の商業拠点を形成しており、周辺市町村からの流入が多い。
- ・横手市から買い物の流出先としては、秋田市が第1位となっているが、流出率は約6%と低い値にとどまっている。

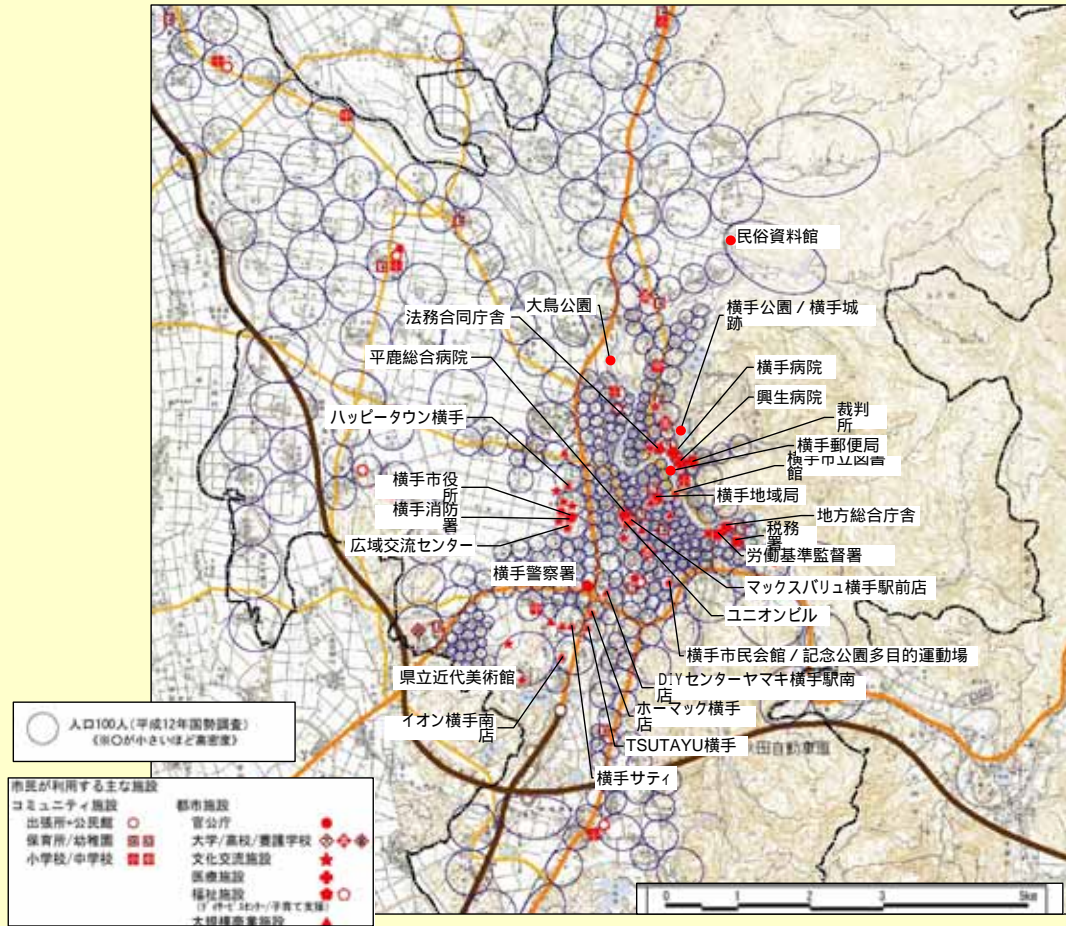
図-他市町村への買い回りの流出状況



(資料: 平成16年度 消費購買動向調査)



# 都市施設の分布状況



## (2) 横手市の土地利用状況等

### 市街地周辺の状況

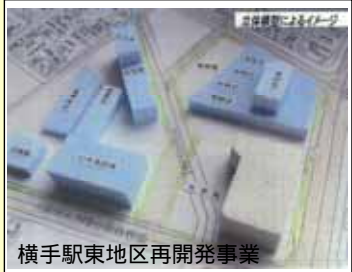
郊外に広がる田園風景  
 国道13号沿道  
 郊外の大規模SC  
 横手駅西口駅前広場整備イメージ  
 白地地域に立地し中高一貫学校  
 工事中の平鹿病院



## 街なかの状況



横手駅前の通り



横手駅東地区再開発事業



横手駅前



コミュニティ道路が整備された旧商店街



横手市役所前の通り(横手環状線)



街なかに残る歴史的建造物

## (3) 横手市の都市構造の特性・課題

### 横手市の特性

昭和の合併により市域が拡大。城下町から発展した中心市街地と、郊外に点在する農村集落よりなる。

概ね旧町村単位で出張所、小中学校、最寄品を扱う商店などが立地し拠点を形成。

秋田自動車道と湯沢横手道路が連結

1980年代まで、横手駅東側で区画整理等による市街地整備を推進。国道13号等の主要幹線道路沿道に大型店立地するなど、市街地が西側に拡大。(駅前から撤退)

横手駅周辺には大型商業施設、文化交流施設が立地。

街なかには流雪溝等の社会基盤施設の整備が充実。

中心部の街道沿い等に古くからの宿場町・城下町の街なみが残る。

古くからの市街地は高齢化率が高い。

平鹿総合病院を西側に移転・整備中

### ヒアリング結果

**【市街地関連】**  
 ・用途地域外に住宅地や大型店の立地が見られる。  
 ・大型店の立地計画があり、農家と業者で合意済みだが、農政側が開発を阻止

**【中心市街地関連】**  
 ・平鹿総合病院跡地で再開発を計画(商業、住居、福祉の複合用途)  
 ・駅西口広場、自由通路の整備  
 ・中活の再提出、準工規制を検討中  
 ・街なかの家賃が高い。郊外は家賃が安く設備も良いため、若い世帯が居住。

**【交通関連】**  
 ・横手駅西口広場を整備中  
 ・公共施設の移転に伴うバス路線の再編

**【行政コスト】**  
 ・農村公園の指定管理者制度の導入  
 ・教育・除雪等の市民サービスの維持

### 将来動向

平成42年には昭和55年(ピーク時)から約30%の人口が減少する。

平成42年には高齢化率も約40%となり、超高齢社会となる。

### 横手市の都市構造上の課題

**安全・安心な暮らし**  
 豪雪地であり、なおかつ高齢化が進むことから、除雪ボランティア等の除排雪を強化し、安心して暮らせる生活環境の維持が必要

**アクセシビリティの確保**  
 公共交通の利用が低下しており、地域にあったバス交通の見直しが必要

**都市機能の適正配置**  
 横手駅西口や駅前再開発などの促進による中心部の都市機能の充実

**コミュニティの維持・再生**  
 豊かな歴史・文化を活かしたコミュニティの維持・再生が必要

**土地利用のあり方**  
 市街地外延に広がる土地利用拡大の抑制

**環境・景観に配慮した都市の形成**  
 山や川など横手盆地に広がる身近な自然を保全していくことが必要

**都市経営**  
 インフラストックの拡大に伴う、除排雪の負荷の増大

## (4) 横手市におけるコンパクトシティの検討

中心市街地を基点として、市街地や集落が連結されるネットワーク型コンパクトシティ

横手市は秋田県南部の中心的な都市であることから、魅力ある中心部を有する都市づくりが求められており、それが横手市と周辺地域を持続的に発展させていくことにつながる。

そのため、都市的サービスを提供する街なかと周辺集落、町村部が、相互連携する一体的な都市圏を作り上げて、歴史や文化を継承する持続可能な都市圏を形成することで、高齢化社会においても安全安心な暮らしが営まれる。

### 安全安心の暮らし

雪が降っても高齢者など多くの市民が安心して暮らせる中層の住宅、流雪溝、除排雪ボランティア等の施設・機能が維持・拡充された市街地の形成

### アクセシビリティの確保

バスターミナル整備、再開発にあわせた、街なかへのアクセスが向上するバス交通網の整備

### 都市機能の適正配置

再開発事業や駅西側の区画整理事業など、横手駅を中心とした都市機能の拡充

### コミュニティの維持再生

かまくらをはじめとする歴史・文化を活用した他の都市と農村の交流促進

### 土地利用のあり方

農政側との連携を図り、幹線道路沿道に広がる市街地拡大を抑制

### 環境・景観に配慮した都市の形成

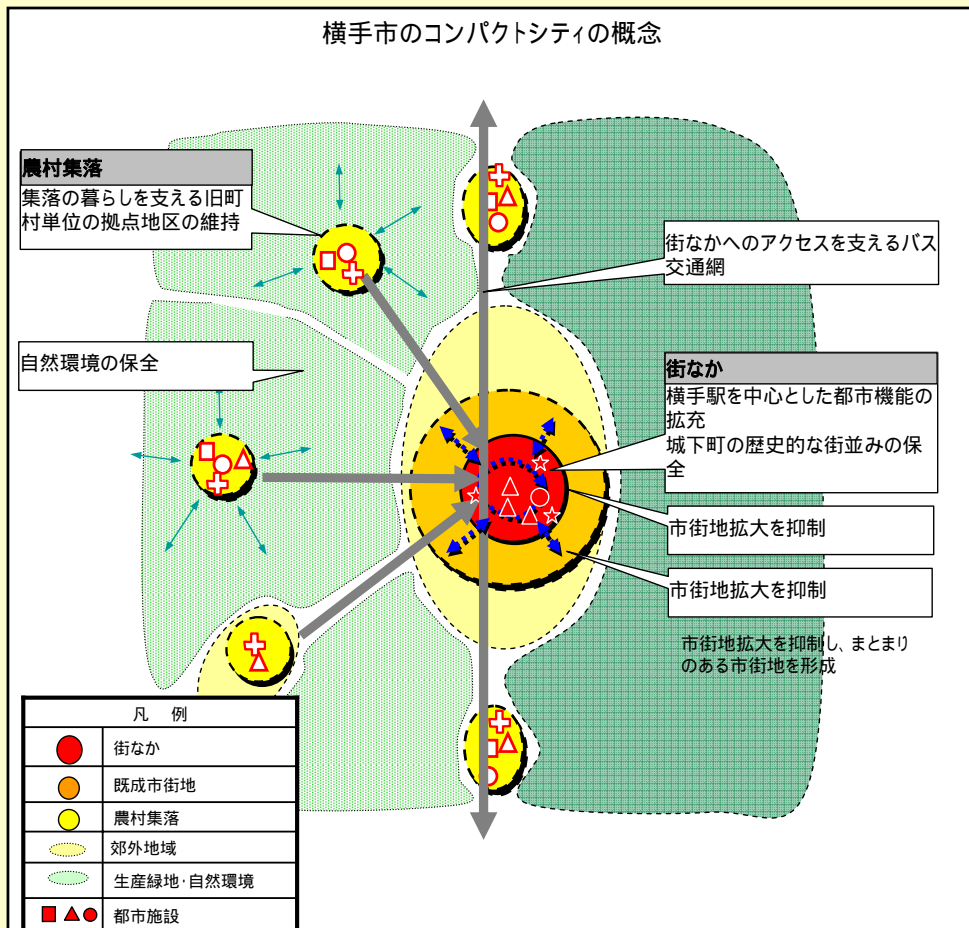
横手川などの自然環境の保全、城下町の歴史的な街並みの保全

### 都市経営

市街地に集積した都市機能のストックを有効活用し新たな開発投資の抑制

37

横手市のコンパクトシティの概念



38

将来人口の設定例

横手市のコンパクトシティイメージ例

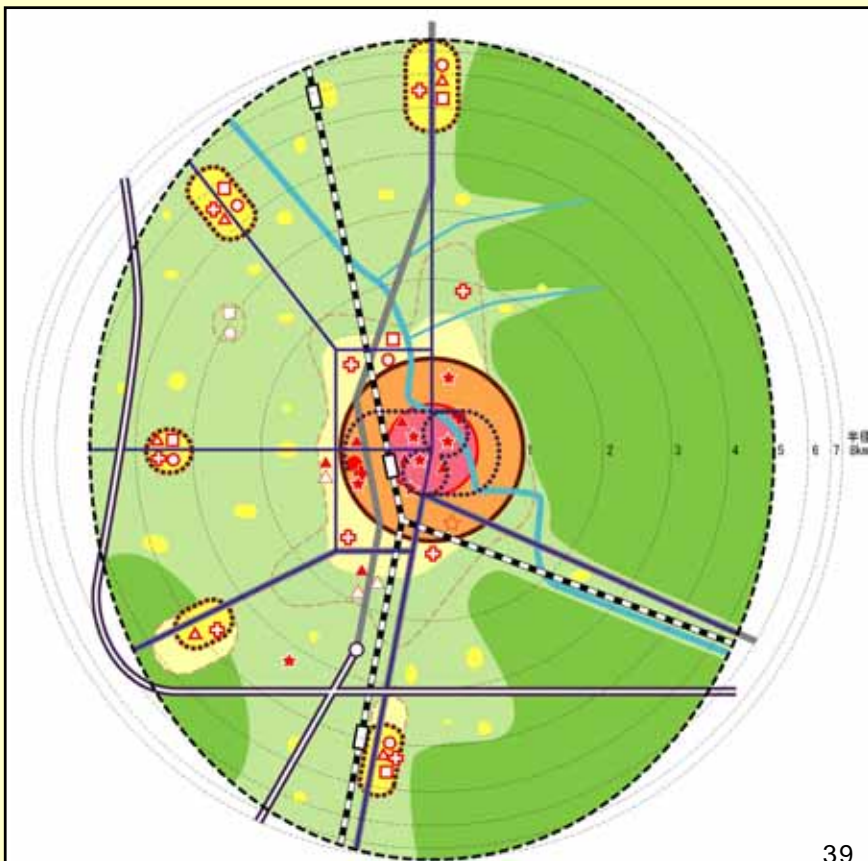
	H12 (基準年)	H42 (将来予測)	備考
人口 (人)	40,521	30,600	人口が約1万人減少
DID人口 (人)	15,677	15600	H42のDID面積、人口はH12と同等程度を都市生活エリアで確保した場合を想定
DID面積 (km <sup>2</sup> )	3.91	3.9	
DID密度 (人/ha)	40.1	40	
その他人口 (人)	24,844	15,000	DID外から約1万人が減少

資料: 将来人口は人口問題研究所

「日本の市区町村別将来推計人口」(平成15年12月)

凡例

● 市役所	○ 公民館・公民館	≡ 幹線
★ 文化芸術施設	□ 中学校	— 主な道路網
◆ 総合病院	◎ 図書館	— ループ型中心交通
▲ 大型店	△ 商業施設を有する商店	— 高速道路
● 中心コアエリア	● 一級市街地地域	● 山部地域
● 都市生活エリア	● 郊外地域	
● サブ都市生活エリア	● 集落地域	
● 集落エリア	● 開墾・緑地地域	



2 - 3 . モデル都市検討のまとめ



# モデル都市のコンパクトシティ像の整理

	宮古市	東根市	横手市
コンパクトシティ像	特徴ある生活サービス拠点が市民生活を重層的に支えるクラスター型コンパクトシティ	農作物や自然緑地等身近な環境がまちを彩る緑住コンパクトシティ	中心市街地を基点に市街地や集落が連結されるネットワーク型コンパクトシティ
安全安心な暮らし	限られた市街地を活かし、中層の魅力ある建物整備等により快適で安心して住み続けられる空間を形成	東根本町、長瀬の既成市街地において、安心して住み続けられる生活環境の形成	雪が降っても高齢者など多くの市民が安心して暮らせる中層の住宅、流雪溝、除排雪ボランティア等の施設・機能が維持・拡充された市街地の形成
アクセシビリティの確保	宮古駅前広場整備を中心に、点在する都市拠点や中山間地をネットワークするバス網をデマンドシステム等の多様な手段で展開	集落、周辺市町村の生活を支える市民バスネットワークの強化	バスターミナル整備、再開発にあわせた、街なかへのアクセスが向上するバス交通網の整備
都市機能の適正配置	街なかは市民の買い物の場、ちょっとしたハレの場として、安心して歩ける道路空間が確保された、歩いて楽しめる商店街を形成	さくらんぼ東根駅周辺への公共公益施設等の集積による中心地区の形成	横手駅を中心とした、都市機能の拡充
コミュニティの維持・再生	災害に対する市民・企業等の応援体制の強化 周辺の農漁村との交流に向けた市民主体の活動の展開	さくらんぼ等を媒介とした都市と農村の交流促進	かまくらをはじめとする歴史・文化を活用した都市と農村の交流促進
土地利用のあり方	山林は保全を図ることを基本とし平坦地の有効活用を図る	国道沿いの大規模店舗の立地等を抑制するなど市街地拡大のコントロールと、市街地内未利用地の有効活用を推進	農政側との連携を図り、幹線道路沿道に広がる市街地拡大を抑制
環境・景観に配慮した都市の形成	基幹産業である水産業の振興を図る観点からも、山林開発を抑制し自然環境を保全。	りんごやさくらんぼといった果樹や田園など、身近な緑に囲まれた農村景観や生活環境の保全	横手川などの自然環境の保全、城下町の歴史的な街並みの保全
都市経営	水産物の高付加価値化等を推進し、宮古ブランドの形成を図る。	空港等の立地特性を活かした産業の振興	市街地に集積した都市機能のストックを有効活用し新たな開発投資の抑制

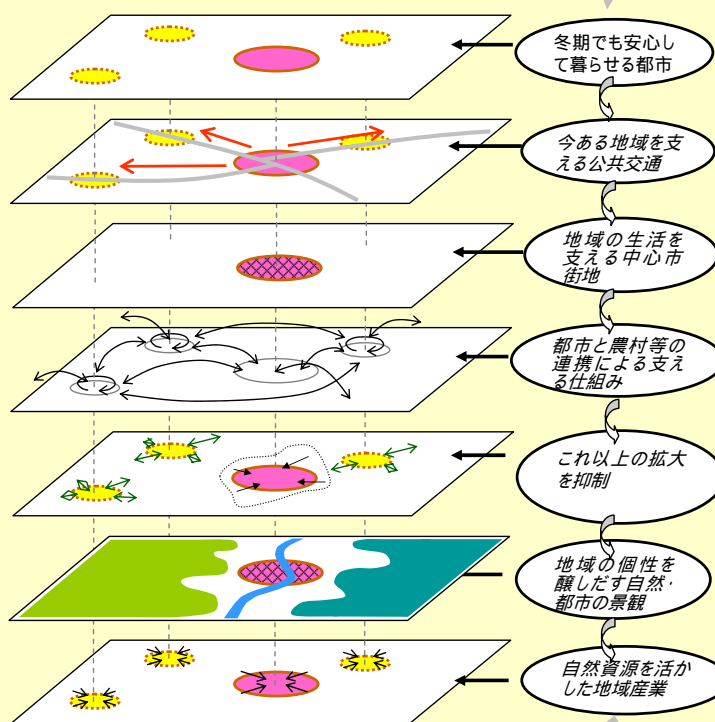
## モデル都市の検討

宮古市   東根市   横手市

【モデル都市検討から得られた共通的な考え方】

安全安心の暮らし	除排雪対策や高齢者の生活支援など安全・安心して暮らせる生活環境の形成
アクセシビリティの確保	高齢化社会が進展する中小都市では、 <b>点在する集落等の地域の生活を支える公共交通のネットワークの形成が必要</b>
都市機能の適正配置	<b>地域の生活を支える中心市街地の再生</b> 。街なかは、 <b>都市規模に応じた都市機能の集積を図り歩いて楽しめる空間</b>
コミュニティの維持再生	都市と農村の交流などにより支えられた都市
土地利用のあり方	市街地の拡大が抑制された都市構造
環境・景観に配慮した都市の形成	身近な自然、生産緑地の保全や歴史的な景観が維持された、 <b>緑のなかに佇む美しい都市構造</b>
都市経営	地域環境を活かした <b>産業育成</b> と新たな <b>投資や維持費を抑制</b> する都市構造

## 【コンパクトシティ像の検討】



# 3. 「東北地方の中小都市」におけるコンパクトシティ像

## 【東北地方の中小都市のコンパクトシティ像】

「東北地方の中小都市」のコンパクトシティは都市と農山漁村がこれまで培ってきた地域の生活を新しい仕組みで再生していく「街と里の暮らしが融合するコンパクトシティ」

コンパクトシティの理念	コンパクトシティ イメージ図														
<p>高齢者を始め誰もが安全で安心できる日常生活を過ごすことができるまちづくりを目指していく。</p> <p>地域の固有の歴史・文化を継承し、賑わいと活力がある中小都市を目指して市民や関係者が取り組む。</p> <p>コンパクトシティは、市街地と周辺緑農地が相互に依存し、豊かな自然環境や景観を維持、発展させる。</p> <p><b>(コンパクトシティイメージ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心な暮らし(ほど良い暮らしができる都市)</li> <li>アクセシビリティの確保(誰もが安心して移動できる都市)</li> <li>都市機能の適正配置(賑わいと活力のある市街地が息づく都市)</li> <li>コミュニティの維持再生(地域コミュニティや協働の取組みにより支えられた都市)</li> <li>土地利用のあり方(農地や山林等の豊かな自然に縁取られた都市)</li> <li>環境・景観に配慮した都市の形成(環境負荷の少ない美しい都市)</li> <li>都市経営(地域の産業が育成され、効果的な都市経営が行われる都市)</li> </ul>	<table border="1" data-bbox="1177 1939 1394 2119"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● (pink)</td> <td>街なかエリア</td> </tr> <tr> <td>● (orange)</td> <td>都市生活エリア</td> </tr> <tr> <td>● (yellow)</td> <td>郊外エリア</td> </tr> <tr> <td>● (green)</td> <td>集落エリア</td> </tr> <tr> <td>● (light green)</td> <td>田園地域</td> </tr> <tr> <td>● (dark green)</td> <td>山林地域</td> </tr> </tbody> </table>	凡 例		● (pink)	街なかエリア	● (orange)	都市生活エリア	● (yellow)	郊外エリア	● (green)	集落エリア	● (light green)	田園地域	● (dark green)	山林地域
凡 例															
● (pink)	街なかエリア														
● (orange)	都市生活エリア														
● (yellow)	郊外エリア														
● (green)	集落エリア														
● (light green)	田園地域														
● (dark green)	山林地域														